

STORYS

vol.1



福島県の「このまち」で生きる

それぞれの思い

島田 綾子

「顔が見える人たちと
新しいまちを作っている実感があります」



しまだ・あやこ
1992年6月12日生
神奈川県小田原市出身
大学時代のインターンなどを
経て、2017年に移住。新卒
として「一般社団法人あすび
と福島」に入社し、社会人研
修の事務局を務める。

島田さんは昨年まで大学生で、縁
あって福島に移り住んだと聞きました。
どんな経緯があったのか教えて
ください。

「初めて福島に来たのは、福島への
スタディーツアーがきっかけです。
大学で住民主体のまちづくりについ
て勉強していた時から『観光だけで
終わらない旅行』を作りたいと思っ
ていたんですね。観光地に来て名所
を巡る娯楽的な旅行も良いのです
が、私は現地の人と交流し、お互い
にまた会いたくなるような『地域の
人にも喜ばれる旅行』を作りたいと
思っていました。そんな中参加した
スタディーツアーで、農家さんと田植
えをしたり、仮設住宅の方々とお菓
子を作ったのが、自分のイメージす
る旅行に近くて、『自分もこんな旅
行を作りたい』との想いから、大学
三年の時に休学して、インターンで
福島に来ました。

でも実際に地域の体験ツアーを企
画・運営してみると、旅行は一つ
の『手段』で、重要なのはその地域
に合った手段を創れる人、地域の担
い手を生み出すことだと感じたん
です。そんな中あすびと福島を紹介
いただいて、このまちに来ました。こ
のまちに来たかったというよりは、

自分のやりたいことを実現できる場
所がこのまちにあった、という感じ
です」

お話のあった「あすびと福島」は
どんな活動をしているんですか？

「福島の復興には長い時間が必要と
なるため、これから担う人材の育
成を目的としています。小中学生を
対象とした再生可能エネルギーの体
験学習に始まり、高校生・大学生向
けの社会起業塾、社会人研修などの
事業を行っています。私は入って
ちょうど一年が経ちました。社会人
研修を主に担当しています。

あすびと福島が目指す人材育成の
あり方として、『憧れの連鎖』とい
うのをキーワードにしています。例
えば事業を起こす若い人材がいて、
それに憧れる小中高生がいて、その
連鎖が回り続ける状態を目指して
おり、地域の課題に向き合う人材を育
てるという志が、私の目指す『地域
の担い手を生み出す』という志にと
ても近いと感じたんです」

このまちに来て一年ほどというこ
とですが、充実していますか？

「していますね。共に働きたいと心



取材した日は駅イベントに参加。振る舞う料理を地元の人たちと共に作った。様々な形で、まちでの暮らしを楽しんでいる。



「あすびと福島」の社会人研修で大震災の被災地を案内する島田さん。研修は被災地を自分事化することから始まる。

から思う人たちと仕事ができている。来て感じたことは、この地域自体が社会課題解決の先進地域になるのだということです。いろいろなアクションをしている方がいて、顔が見える人たちと共に新しいまちを作っている実感があります」

いろんな人との出会いを楽しんでいる感じもありますね。

「そうですね。仕事で出会った方がプライベートでも迎えてくれたり、仕事と暮らしが近いところにあると感じています。あまり仕事と暮らしの境目を分けたくないと思っているので、居心地が良いですね。例えば仕事でお世話になっている農家民宿のお母さんたちが、季節の行事の体験をしているのですが、今まで知らなかったような地域の伝統文化を教えてくださいます。今までと違う文化に触れるのがとても新鮮ですし、こうした交流の場が好きですね。地域の方々と一緒にお餅をついたり、味噌を作ったりするのも楽しくて、神奈川にいた時はそれが『買うモノ』だったのですが、今は作り出す楽しさがあると思っています。そういう知識を得たり、日々の営



南相馬ソーラー・アグリパーク
福島県南相馬市原町区泉字前向 15
TEL 0244-26-5623
Mail : info@asubito.or.jp

一般社団法人
あすびと福島

みの中から楽しいっていう感情を得られることを考えると、とても充実したコンテンツがあるまちだなと思います。自分たちでモノや場を生み出すことで、いくらでも日常を楽しめるんですね。私はいつでもピクニックができるように、車にはレジャーシートとミニテーブルを積んでいます。ちよつと景色が良いところを見つけたら、そこでおやつを食べるだけで最高の休日になります。そういう楽しみ方をするには事欠かない場所だと思っています。たくさん『面白いこと』が生み出せそうです」

渡部 光壮

わたなべ・みつたけ
1983年4月19日生
高校を卒業後、京都で日本料理を学び、料亭での修業を経て専門学校の日本料理講師を務める。その後Uターンし、2016年4月より日本料理「花月」の料理長となる。
第5回日本料理コンペディション京都決勝大会で優勝した経験も持つ。

「まだ戻ってきて二年ですし、なにか結果に結びついているという感じはないですが、これからもブレずにやっていきたいと思います。」



渡部さんは京都で日本料理の料理人として活躍されて、その後故郷に戻ってきた形ですね。どのような経緯だったのでしょうか？

「活躍かどうかはわかりませんが（笑）。私が現在料理長を務める「花月」のあるホテルフイーンヌの代表が親戚で、以前から誘いは受けていたんですね。はじめのうちは京都で学ぶことがまだあるとお断りしていたんですが、自分の腕でなにか役に立てないかと思って戻ってきました」

シェフとしてだけではなく、他にも色々なところでお見かけします。最近ですと地産地消をテーマにした市のイベントにも出演されていました。

『御本陣』という地酒が昨年できたので、それに合う料理のレシピと実演ということでやらせていただきました。

あとは四月から、県内のテレビ局で放送している番組の料理コーナーで『先生』を務めることになりました。二週間に一回、収録してきます」

すごいですね。お店をやりながら、多岐にわたって活動していますね。

「いえいえ、そんなことはないです（笑）。おかげさまで周囲からお声がけいただきました。料理を通してやれることは、なんでもやっていきたいと思っています。」

ただ私の方から提案したものとして、一度『食育』の授業をしたことはありました」

食育ですか？

「もともと専門学校の講師をしていたので、学校としてそうした授業をやることもあるんですね。食育は大切なことだと思うので、地元で子どもたちに向けてできないかと思い、小学校に提案させていただいて一昨年に開催しました。なかなか地元でそうした機会がなかったので。その時は主に『味覚』についての授業をしました。これはもちろん私だけがやる必要はないと思っていて、例えば生産者の人たちなどと組んで、今後も続けていく環境ができればいいのかなと思っています。」

まだ戻ってきて二年ですし、なにか結果に結びついているという感じ



京都で培ってきた料理の知識・技を、自身の店だけではなく様々な場で活かしている。イベントへの参加や商品開発の依頼など、多岐にわたる。



日本料理に気軽に触れてもらえるよう、敷居の低い店作りも心がけている。ランチメニューは ¥1,200 ～とリーズナブル。

もないですが、これからもブレずにやっていきたいと思っています」

お店としてはどんなところを目指しているのでしょうか？

「おいしいものを作ることですね（笑）。料理人ですから。けれど店があることで、人も来てくれますし。復興の関係などで市外からもたくさんの方が来ていますけれど、話を聞いて使ってくれています。常連の方も少しずつ増えてきていて、そうしたことが何かに繋がっていきばいいなと思っています。」

あともう一つ大事にしていることがあって、いま日本料理の職人や志す人が減ってきているんですよね。料理をやっている以上は、そういう人を育てるというのも大切な仕事だと思っています。それは義務というか、使命というか。やらなきゃいけないことだと思っています」

例えば食材など、このまちのいいところもたくさんあると思うのですが、それらを使っていきたい

という思いもありますか？

「いろいろ使うようにはしています。おいしいものはたくさんありますよね。やっぱり料理人なので、おいしいものをきちんとおいしく口に運べるようにしたいと思っています。それで外から来てくれた人が、こっこの野菜とか魚とかがおいしい、食べてみようと思ってくれたらいいです。もちろん、地元の人も気づいてくれたらいいですね」



日本料理
花月

福島県南相馬市原町区旭町 2-29 ホテルラフィーナ 1F
TEL 0244-23-4111
ランチ 11:30 ~ 14:30 (L.O. 14:00)
夕食 17:00 ~ 22:00 (L.O. 20:30)
第2 / 第4火曜・毎週水曜定休

川口雄大

「ここで店やっていると、
けっこうおもしろいヤツが来るんだよね。」



かわぐち・たけひろ
1989年8月1日生
震災後に故郷に戻り、2015年
10月から「川口商店」を構える。
実家の米屋をリノベーションして
飲食店とし、昼はランチ、夜はバー
として営業している。髪型は天然
パーマ。

川口さんはこのまちの出身で、数年前に帰ってきて飲食店をはじめたと聞きました。

「専門学校を中退して、そのあと別の仕事をしたりしたんだけど、こっちに好きな人がいて帰ってきた。そしたら、その子から『子どもが出来たので結婚することになりました』って連絡きて…（笑）帰ってきた目的が無くなったからなにをやるかなと思ってたんだけど、実家の米屋が震災で休業していて、その場所を活かして『四代目』として飲食店できないかなって思い始めたのがきっかけ。

最初に始めようと思ったのが、『このまちで一番遅くまでやってる飲食店』。震災のあと地元の飲食店が夜遅くまで営業してないっていうのを聞いて、はつきり言って飲食店の経験もないし、お酒の知識もない。じゃあ何だったらできるかなって思った時に、このまちで一番遅くまでやってる店ならできるんじゃないかって思ったんだよね。いちおう閉店時間は決めてるけど、体力が尽きるまでやってる。あとは裏にログハウス作って、ある程度飲み食いしたお客さんを無料で泊めたりしてるよ。飲みの終点まで作っちゃえばいいん

じゃないかって。あとは、お客さんが参加できる飲食店っていうのは目指してる」

『お客さんが参加できる飲食店』ですか？

「趣味ごとに『部活』っていう括りを作って、お客さん同士が集まって楽しめたらいいって思ったんだよ。そのアイデアはうまく機能してるわけじゃないんだけど、今も目指しているところはそこで。例えば本棚があるんだけど、そこをレンタルボックスにしてる。趣味で手芸とかやってるおばちゃんいたりするけど、それを表に出す場所って、意外となんだよね。だから売る場所を作って、来た人がいいなと思って、買ってもらえる場所を恒常的に作りたいと思ってる。

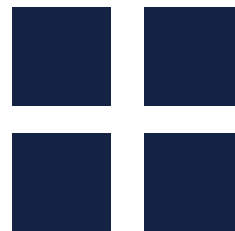
あと一番大事にしているのは、お客さんが『これやりたい』って思ったことを形にするようにしてる。一番盛り上がったのは『仏陀生誕祭』ってイベントで、仏陀のだいたい二千歳の誕生日の時に、俺が仏陀のコスプレして接客したりするっていう。ケーキも準備したけどロウソクが二百本しか刺さらなかった」

＼ Check!! /



2011年3月11日以降にこのまちに移住した方へ、
昼食 or 夕食を1ヶ月間無料でご提供しています！
移り住んできたばかりの、なにかと大変な生活を、
川口商店がサポートします！
住民票や運転免許証など、証明できるものをお持ち
ください。

※詳細は店舗までお問合せください



川口商店のロゴマーク。4つの四角で「四代目」である
こと、漢字の「米」をモチーフにすることで以前の業態
の流れを残した。



カウンターには、多彩な趣味趣向を持った仲間が、夜な夜
な集まってくる。他愛のない話から「お客さんの参加でき
る店」のアイデアが生まれる。

普通の飲食店とはだいぶ違う形に
なってきましたね。このまちだから
こそできたっていう感覚はあります
か？

「ここで店やっていると、けっこうお
もしろいヤツが来るんだよね。例え
ば絵を描けるやつがいて、酒を奢る
かわりにメニューの絵を描いても
らったり。DJやってるやつもいる
から、店内でイベント開いてもらっ
たり。いろんな人がいるまちだなと
思ってるよ。そいつらと一緒に何か
を作るのが楽しいね。楽しんでなん
ぼだろうって思ってる」

お客さんも川口さんも参加しなが
ら、店を作り上げているんですね。
そんなまちで、これからやりたいと
思っていることはありますか？

「中高生たちの溜まり場を作ってい
きたいと思ってるんだよね。昔は子
どもたちが学校帰りに集まるたこ焼
き屋みたいなのがあったじゃない。
それが今はないから、それを作るだ
けじゃなくて、育てていける『塾』
みたいな場所になりたいかな。海外に
行った経験もあるから、そこで知っ
た英語の使い方や文化を教えてあげ
たり。学校じゃ教えてくれないこと

を教えていくような場所を作りたい
ね。これは絶対にやった方がいいと
思ってる。若い子はいずれ進学とか
でまちを出ていくけど、閉塞感から
出ていくのと、外の世界に可能性を
感じて出ていくのとじゃぜんぜん違
うじゃん。外に可能性を感じたなら、
また戻ってくる可能性もあると思っ
たよね」

外に出る目的を変えるっていうこ
とですね。

「それをとにかく、楽しみながらやっ
ていきたいね」



川口商店

福島県南相馬市原町区本町 3-21
TEL 0244-32-0907
ランチ 11:30 ~ 13:30
夕食 19:00 ~ 24:00 (体力が尽きるまで)
毎週 日・月曜定休



私たちが暮らすのは
「福島県南相馬市」です

Data

福島県南相馬市

【居住人口】

54,270 人（平成30年3月31日現在）

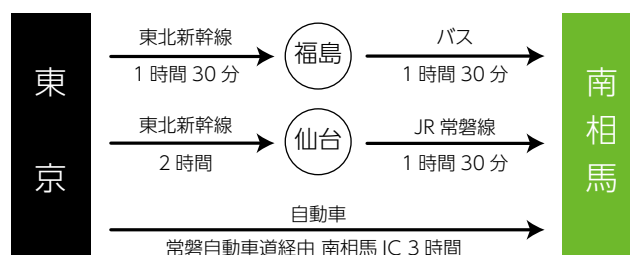
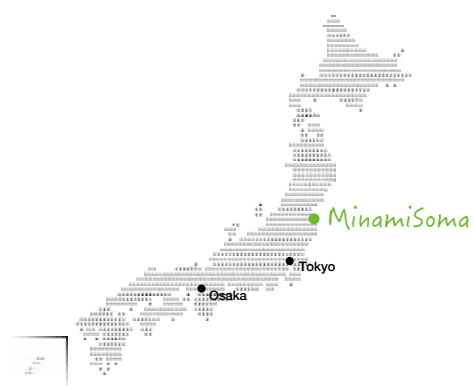
男：27,098 人

女：27,172 人

【面積】

398.58 km²

Access



南相馬暮らしに向けて

移住は自分がやりたいことのための手段。
やりたいことが南相馬にあるか探してみましょう！



それぞれのStepに対して
様々な支援を行っています

<問い合わせ>

南相馬市 移住定住推進担当

Tel 0244-24-5269

Mail shienteiju@city.minamisoma.lg.jp